

2023年度 活動計画

2023年6月23日

一般社団法人 EMoBIA (エモビア)

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
 - ① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2023年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2023年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 2023年度 取組み体制
7. 取組み計画表 2023年度事業活動計画マスタープラン

一般社団法人EMoBIAについて

MISSION

地域公共交通を始めとするモビリティサービスを対象に、最先端ITS・MaaSを活用した研究及び事業開発等と普及促進を図ることで、地域社会における安全安心、快適性、利便性の提供、更にはグローバルな住み良いまちづくりの実現を目指します。

会員企業間の協調・共創

活動内容



外部団体との連携

ITS・MaaS最新情報の共有

- ・調査研究及び開発
- ・ビジネスモデルの発見・発明・創出
- ・データと先端技術による地域課題対策・まちづくり
- ・人材交流・育成・協業
- ・AI・画像処理技術者育成
- ・国際フォーラム招致
- ・国際協力・協業 等

目次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
 - ① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2023年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2023年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 2023年度 取組み体制
7. 取組み計画表 2023年度事業活動計画マスタープラン

背景：国内外の動向①

ITSの大変革

世界のモビリティ取り組み：CASE, MaaS

CASE 実現の鍵、ソフト・NWが握る
ソフト主導車両 SDV

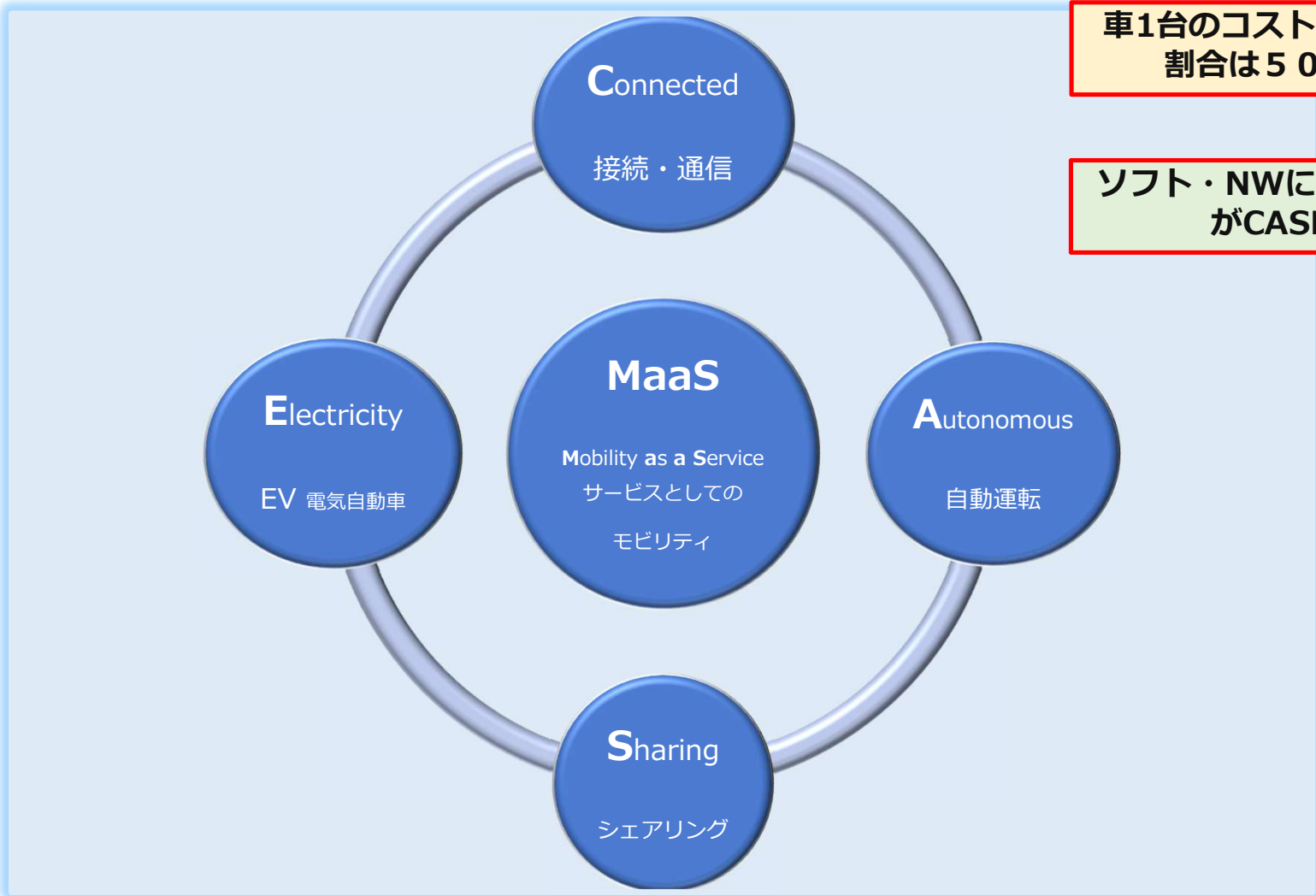


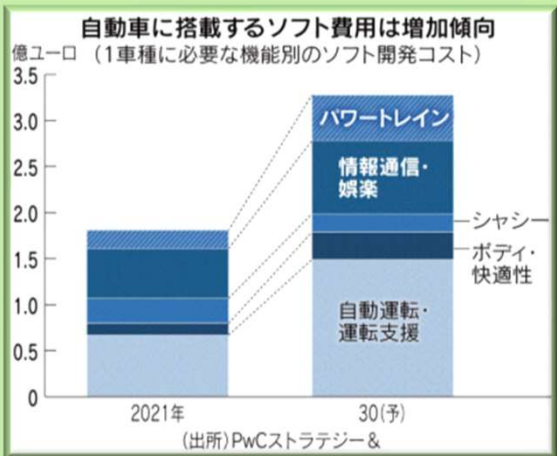
車1台のコストの内、ソフト・NWの割合は50%へ (2030年)

ラックスリサーチ調査 (米国)



ソフト・NWに強い異業種・新興企業がCASEをリードする





ホンダ、ソフト
人材倍増
トヨタは900人
再教育
電動化の競争

nikkei20230530

| 自動車業界でソフト人材の獲得競争が進む | |
|---------------------|---------------------|
| ホンダ | 協業先を含めて2倍の1万人に |
| トヨタ自動車 | 25年までに9000人を再教育 |
| 日産自動車 | 年間100人規模で養成 |
| 米GM | 技術部門の報酬体系をIT大手と同水準に |
| デンソー | 部品技術者1000人を25年までに転身 |
| 独ボッシュ | 世界40万人の全社員を再教育 |

- ・電動化や自動運転が普及すると、車の競争力はハードよりもソフトが左右する。
- ・「ソースコード」と呼ばれるコンピューターに指示を与える文字列はすでに**1億行を超えた**。
- ・車載ソフトが生み出す利益の規模は21年の100億ドル（約1兆4000億円）から35年には260億ドル（3兆6400億円）になる
- ・ソフト重視のクルマづくりで先行する米テスラは、好採算なソフト販売で収益力を高め、1台当たりの純利益はトヨタの約5倍稼ぐ。
- ・ソフトを収益につなげる仕組みづくりも重要となる。

背景：国内外の動向②

世界のEV急拡大

EVは走るエッジコンピュータ：データを高効率・高速処理し利活用

2022年度のEV販売台数1,000万台を超えた（前年比55%増）

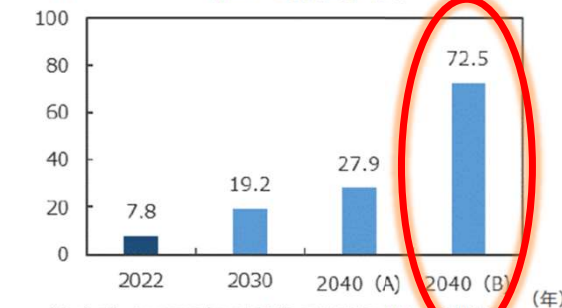
2022年中国のEVは590万台（前年比80%増）→2023年には900万台（52%増）に達し、市場普及率は35%

2022年度、欧州260万台（15%増）、米国99万台（55%増）

2023年には世界全体でBEV普及率の壁と言われるシェア16%を超える見込み

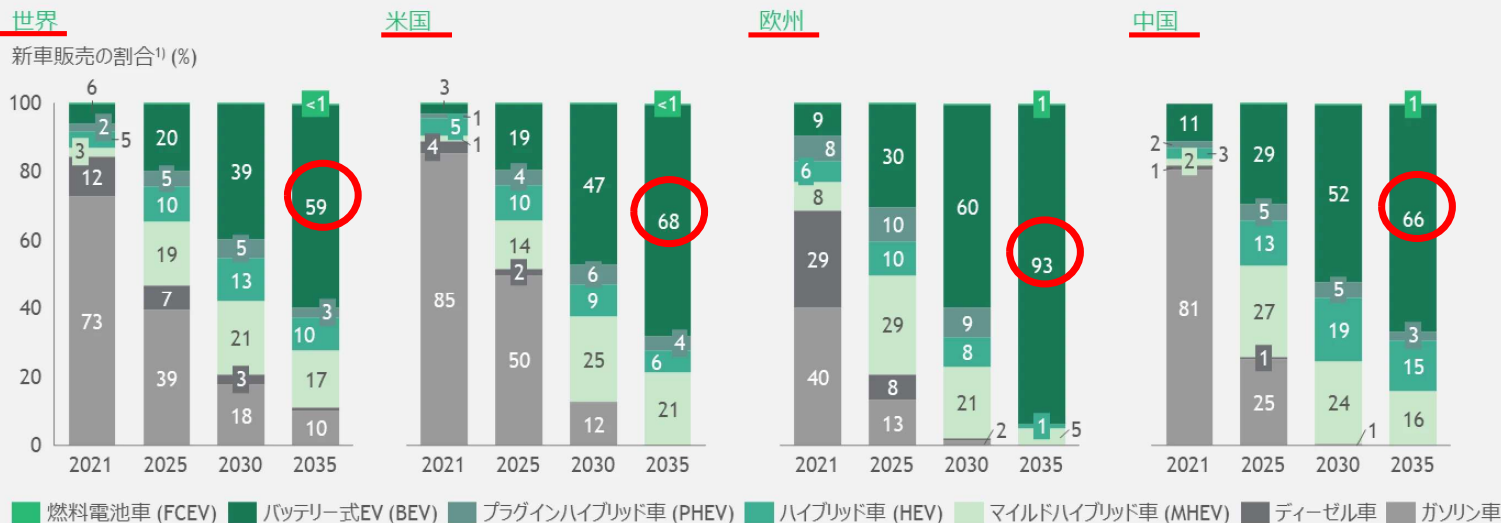
2025年20%→2030年39%→2035年59%（2035年米国68%、欧州93%、中国66%）

【EVの普及予測】



(注1) データは2022年は実績値、それ以降はIEAの予測値
 (注2) 2040 (A) は現在各国が公表している環境対策を織り込んだ公表政策シナリオ、2040 (B) は持続可能な開発シナリオ。
 (出所) IEAのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

図表1: 世界の新車販売に占めるBEVの割合は、2025年に20%に達すると予測



1: 乗用車、スポーツ用多目的車 (SUV) 等を含む。大型商用車は除く

注: 各年のパーセンテージの合計は必ずしも100%にはならない

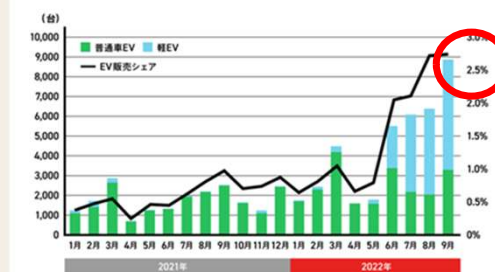
出所: ポストン コンサルティング グループ分析

© Boston Consulting Group 2022 - All Rights Reserved. BCG2022年6月9日発表資料



日本

(図) EV月別販売台数・販売シェア(乗用車)の推移



背景：国内外の動向③ 自動運転の動向：自動運転の実現に向けた取り組みについて

令和4年3月22日（火）国土交通省自動車局

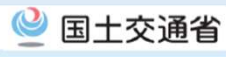
令和4年3月22日（火）国土交通省自動車局
自動運転戦略室長 多田善隆

世界の動向

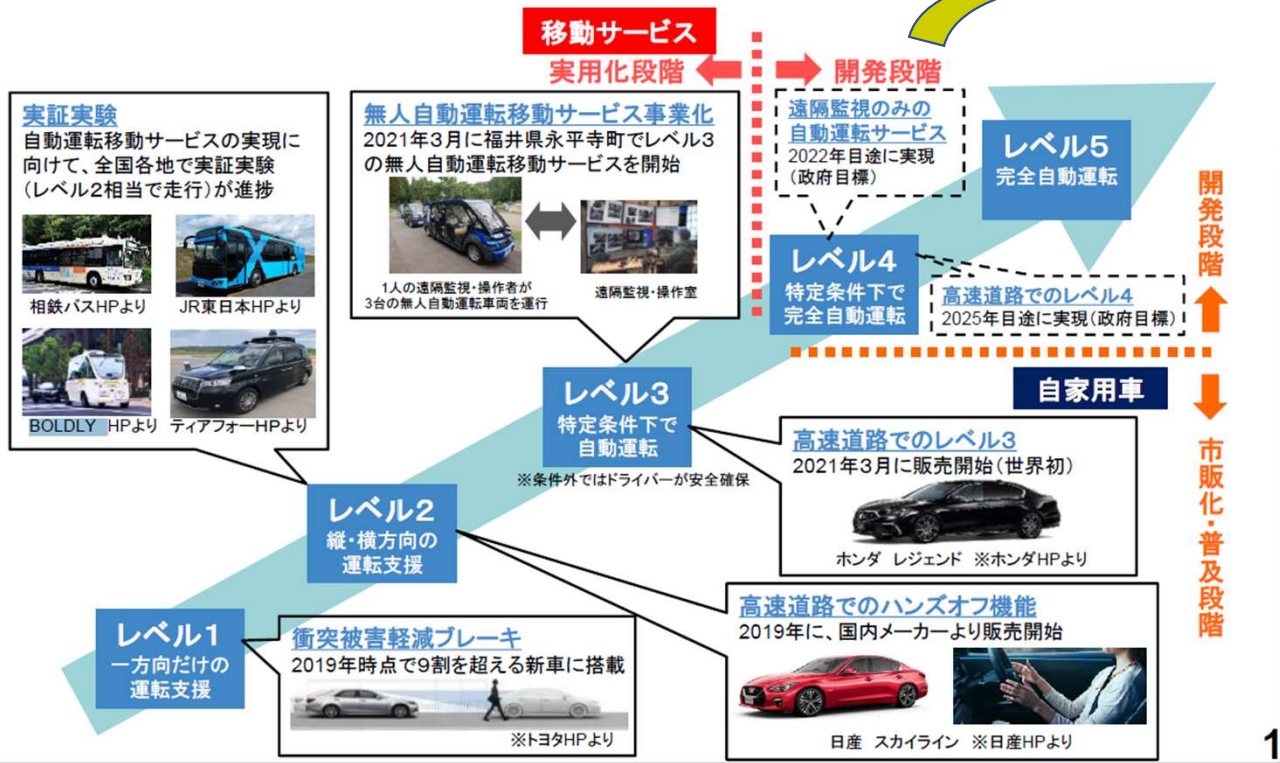
自動運転の動向 AV ? → EV ⇒ AV 1/3日 (93)

- CES2023、自動運転バブル崩壊後、現実主義に戻る
 - 自動車会社の幹部は、使える資金が限られているため、AVを犠牲にしてEVIにリソースを投入している。

自動運転技術の現状と政府目標



自動運転技術搭載車の開発、実証実験、実用化が計画に従って着実に進められている。



政府目標

【移動サービス】遠隔監視のみ(レベル4)の移動サービスの実現に向けた取組

【政府目標】 限定エリアでの遠隔監視のみ(レベル4)自動運転サービスを実現(2022年目途)

遠隔監視・操作型(レベル3) 自動運転サービスの実現

2021年3月、自動運行装置搭載車(レベル3)として認可(永平寺町)



1人の遠隔監視・操作者が3台の無人自動運転車両を運行



車両に福井県版図柄入りナンバープレートを装着

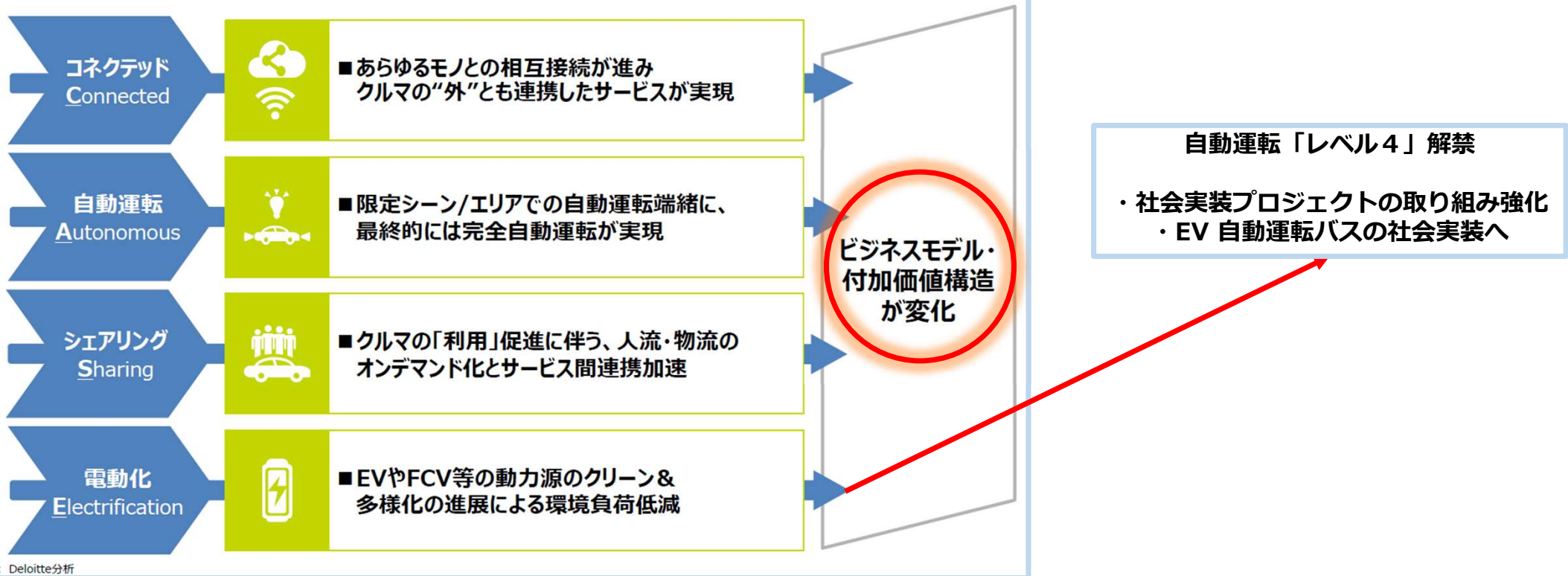
遠隔監視のみ(レベル4) 自動運転サービスの実現に向けた取組

廃線跡等の限定エリアで、低速車両、遠隔監視のみ(レベル4)自動運転サービスを実現

- <取組>
- 車両、システムの高度化
 - 事業モデルの構築
 - 遠隔監視での1:Nの拡大に向けた実証等

0. CASEトレンドとは？

- コネクティッド化、電動化、自動運転、シェアリング化などの産業構造を大きく変える可能性のある変化、いわゆる「CASE」トレンド到来により、自動車産業には事業モデルの変革が求められる。



目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
 - ① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. **2023年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ**
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. **2023年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動**
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 2023年度 取組み体制
7. 取組み計画表 2023年度事業活動計画マスタープラン

2023年度 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ

－ 2021～2022年度の調査結果より －

背景：・九州域での次世代モビリティ取組みが全国比で低い。・福岡県自治体アンケート調査・訪問交流・実態調査で自治体の深刻な交通課題・ニーズを明確にした。
 ・従来の限定的な自治体交流から広域の自治体交流拡大のニーズが強い
 ・クルマ大転換 *CASE時代の次世代モビリティ・MaaS取組みの最新情報をタイムリーにシェアし、自治体連携での支援・展開が求められている

自治体の深刻な交通課題

- ①収支改善・財源不足 57%
- ②運転手不足・二種免許 36%
- ③公共交通利便性の広報活動 36%
- ④交通空白地の解消 36%

自治体のニーズと想定される解決策案

- ①自動運転 57%
- ②他地域事例の情報収集 43%
- ③他の自治体・企業との関係強化 35%

*自動運転は世界的にEV（電動車）への搭載が加速化している（EVファーストの1要因）

| 交通課題項目 | 市町村 | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N |
|---------------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収支改善・財源不足 | 8 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | |
| 公共交通利便性の広報活動 | 5 | ○ | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| モネの予約アプリ促進 | 1 | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急課題無し | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 既存交通の結節強化 | 2 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | |
| コミュニティバスの充実要望 | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 運転手不足・二種免許 | 5 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| 交通空白地の解消 | 5 | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| 近隣自治体と連携不足 | 1 | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| 高齢者のスマホ操作 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 交通に充てる財源不足 | 1 | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| タクシー会社との課題 | 1 | | | | | | | | | ○ | | | | | |

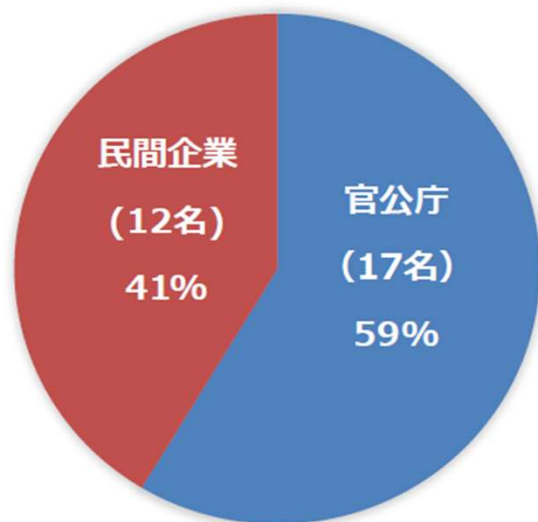
| ニーズ | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N |
|-------------------------|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|---|---|---|
| 他地域事例の情報収集 | 6 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| 他の自治体・企業との関係強化 | 5 | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | |
| 施策の検討 | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 市民と交えた公共交通改善策 | 1 | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 交通計画策定に関する情報収集 | 1 | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 既存公共交通の効率的な増強 | 1 | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 経路検索施策 | 2 | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| イベント通じたほか自治体連携 | 3 | | | | ○ | ○ | ○ | ブルーピング | | | | | | | |
| 市民の外出押し出し | 1 | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| 自動運転に関心あり | 8 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| オンデマンド | 2 | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| JR/バス定期券統一 | 1 | | | | | | | | ○ | | | | | | |
| 自家用有償旅客運送 | 1 | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 鉄道運行可能な小型モビリティ | 1 | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 観光地周遊などのGSM | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | |
| ○割合活用した新モビリティ | 1 | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| コミュニティバスの利用促進に係る情報や企業提案 | 1 | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 自家用車の移動データの集約分析 | 1 | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 軌道鉄道の利活用 | 1 | | | | | | | | | | | | | ○ | |

*CASE：C：コミュニケーション A：自動運転 S：シェアリング E：電動化

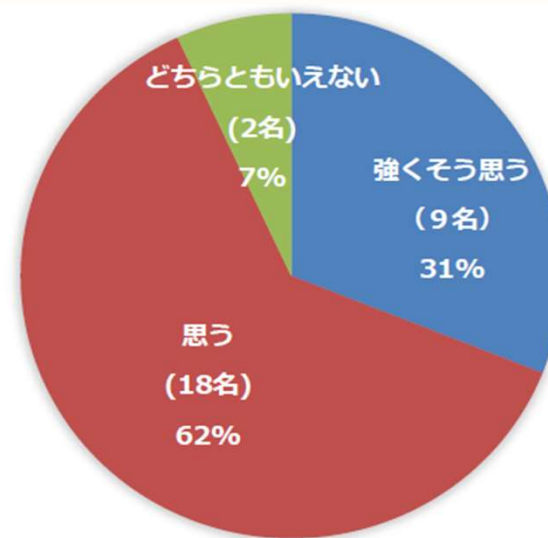
データ活用ワークショップ～データから考える地域の課題解決～参加者アンケート（一部抜粋）

2023年1月16日実施

Q.アンケート回答者属性（選択式）



Q.周りの人や同僚にこのプログラムを勧めたいと思いますか？



Q.本日のWSについて、感想や振り返りについてお聞かせ下さい。

- データ活用の基礎について学ぶことができた。
- ワークショップを通じて、データ活用から政策立案までの過程を体験することができた。
- ペルソナを設定し、その人のウェルビーイングを考えながら、どのようなデータを活用するのかを考えるという思考がとても参考になった。
- データから課題を検



Q.全体を通して、ご意見・ご感想などがあればお聞かせ下さい。

- とても有意義なワークショップだった。
- あまりこういう機会がないため新鮮で楽しく行うことができた。
- いろいろな分野で活躍されている方と交通の課題について検討するのは楽しかった。勉強になった。
- 進み方などで理解しにくい部分もあったが、有意義なワークショップだった。
- データの活用を自



た提

2023年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動

課題 従来取組みの限界

- ・自治体の交通課題解決には従来の取組に限界が生じている
- ・実証検証のほとんどが持続可能な社会実装に至らず、収支悪化、継続取組み困難な状況
- ・新たなテクノロジーと新たな価値を生み出すビジネスモデルでの取組みが求められている

ニーズ 情報収集・交流 への期待

- ・新たなテクノロジーでの取組みや他地域事例の情報収集・新たなビジネスモデル等の情報収集・交流、情報シェアなど、1自治体を超えた広域での効率的な取組みへの期待
- ・自治体も他自治体との連携・交流を期待
- ・各自治体とも取組みへの新たな財源確保が必要

課題・ニーズへの MaaS提案

- ・自治体、MaaS関連企業、県・官公庁各九州局、大学・研究機関連携の九州MaaSマッチング交流会
・データ利活用によるFS事業取組みで自治体の参加希望・期待が明確になった

2023年度活動 自治体交流拡大 支援強化

- ・九州MaaSマッチング交流会を継続的に開催、九州アカデミーITSモビリティ研究会連携
- ・MaaSマッチング交流会を通じて期待されている自治体への支援を強化し、交流を拡大する

データ利活用 先端モビリティ

- 内容：九州モビリティショー開催 **先端モビリティワールド提案**（12月22日～25日開催）
対象：九州域内の地方自治体、MaaS商品・サービス・技術を有する会員企業・先端企業
- 交通計画の作成等に役立つ情報が得られる
 - そうそうたる参加企業が一堂に揃う
 - 多くの企業、自治体、官公庁（九州）・他と名刺交換・情報交流ができる
 - 九州のMaaS関連の大学連携を打ち出す



目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
 - ① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2023年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2023年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. **データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組**
6. 2023年度 取組み体制
7. 取組み計画表 2023年度事業活動計画マスタープラン

データと先端技術による スマートモビリティチャレンジ in 九州の取組み

一般社団法人EMoBIAについて

MISSION

地域公共交通を始めとするモビリティサービスを対象に、最先端ITS・MaaSを活用した研究及び事業開発等と普及促進を図ることで、地域社会における安全安心、快適性、利便性の提供、更にはグローバルな住み良いまちづくりの実現を目指します。

会員企業間の協調・共創



外部団体との連携

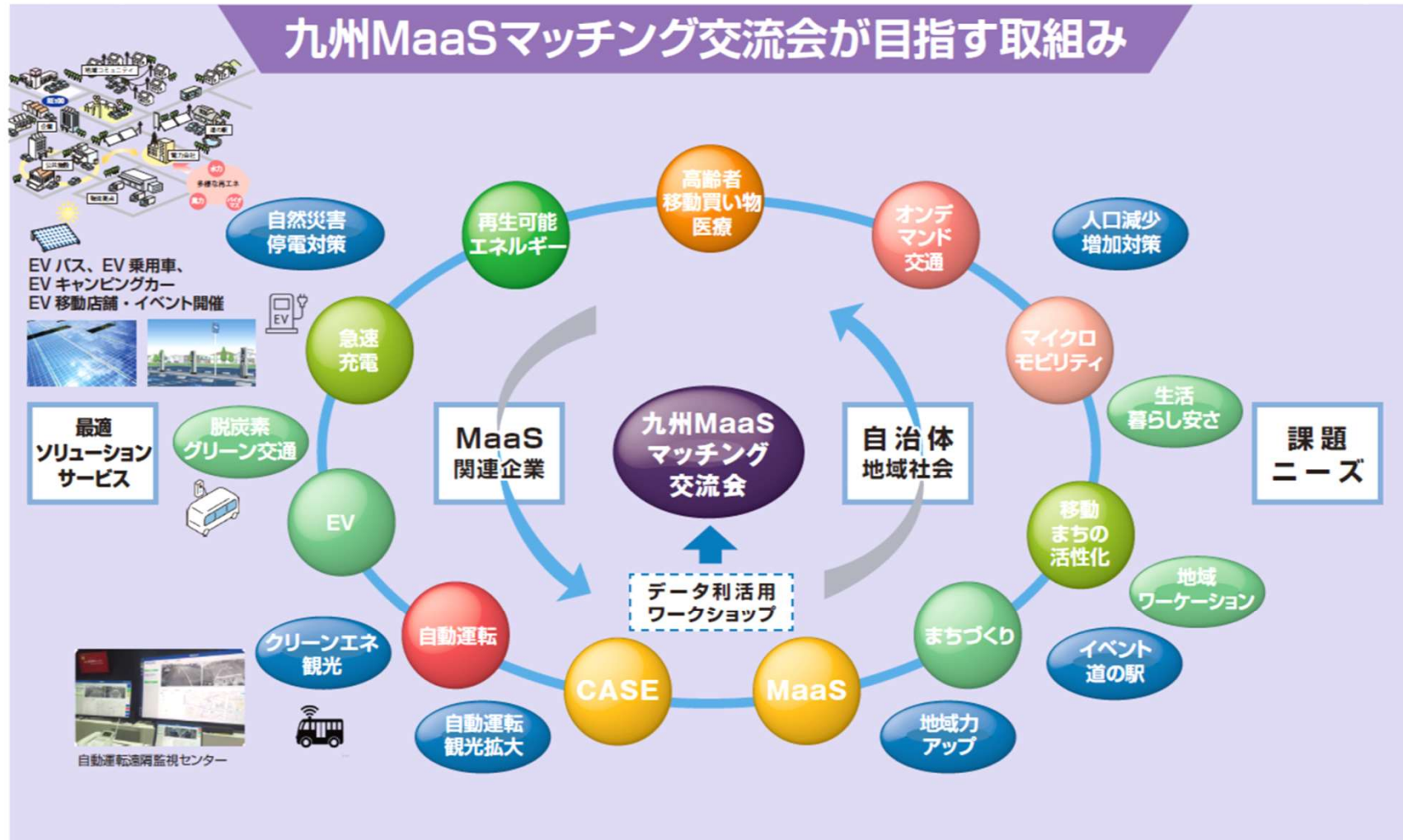
ITS・MaaS最新情報の共有

活動内容

- ・調査研究及び開発
- ・ビジネスモデルの発見・発明・創出
- ・データと先端技術による地域課題対策・まちづくり
- ・人材交流・育成・協業
- ・AI・画像処理技術者育成
- ・国際フォーラム招致
- ・国際協力・協業 等

データと先端技術による九州MaaSマッチング交流会展開

九州MaaSマッチング交流会が目指す取組み



EMoBIA

一般社団法人 **EMoBIA**

具体的な商品・サービス、システム提案を求められている

Everyone's Mobility by ITS

九州MaaSマッチング交流会

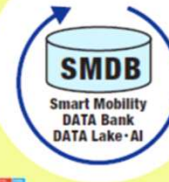
最適なモビリティ・クリーンエネルギー・情報社会を共創

CASE・MaaS・AI、特に電動化・自動運転・まちづくりを加速

EMoBIA
プロジェクト推進サイクル
PPC・SCサブライチエーション



Over The Air 遠隔操作



脱炭素・SDGs・ESGの次世代モビリティ・スマート社会加速



先端技術と規制緩和で地域の課題解決を目指す

次世代スマートモビリティネットワーク



CASE・AI・DX・OTA

次世代自動車、次世代のモビリティ技術

MaaS・Beyond・MaaS

スマートな移動、スマートな乗り継ぎ

データプラットフォーム：各種センサー・データ作成・DATA Lake・データ分析・AI活用・社会OSへ



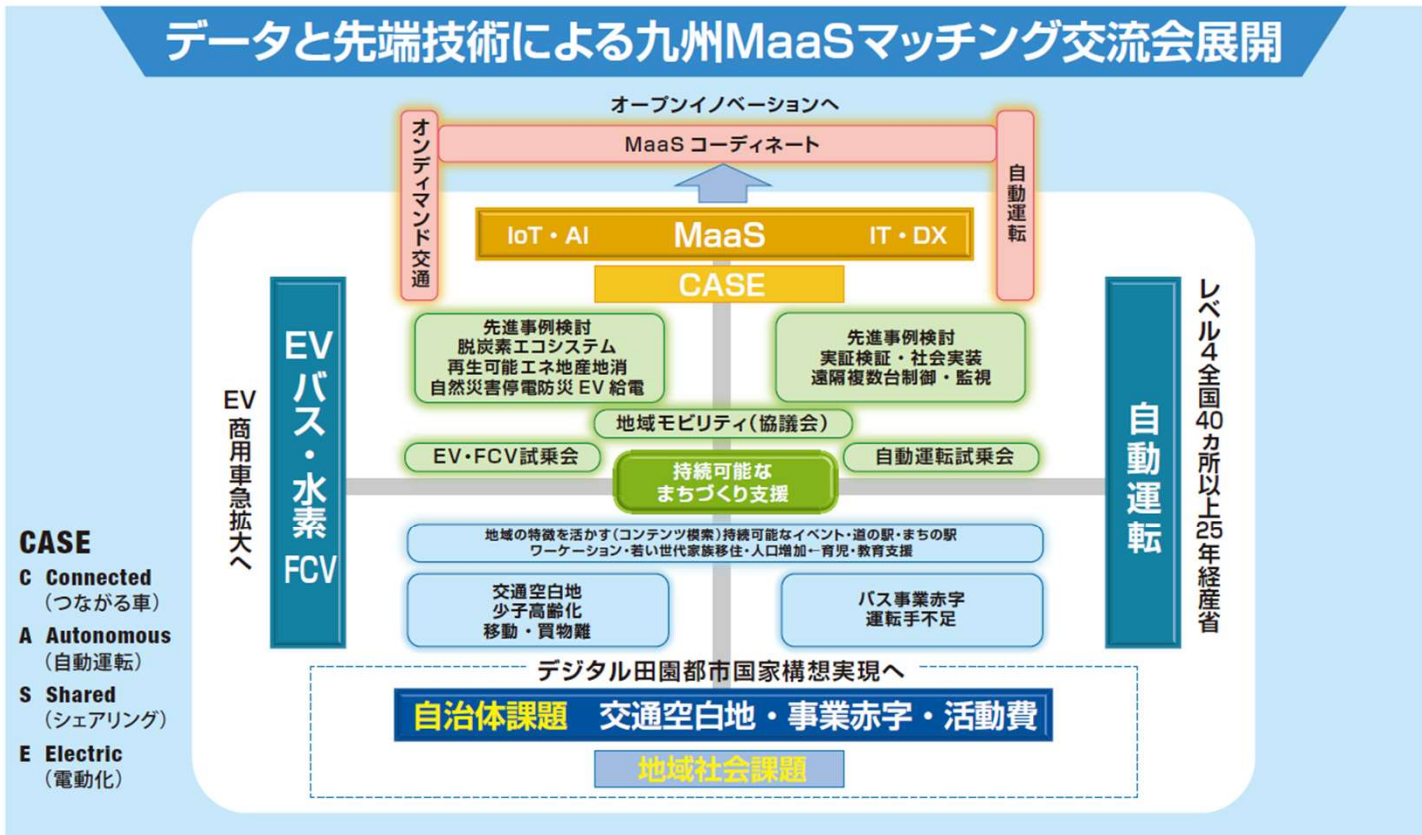
EMoBIA

一般社団法人EMoBIA

自治体・会員・関連企業・大学・官公庁連携での地域共創の取組を強化する

データと先端技術による スマートモビリティチャレンジ in 九州の取組み

データと先端技術による九州MaaSマッチング交流会展開



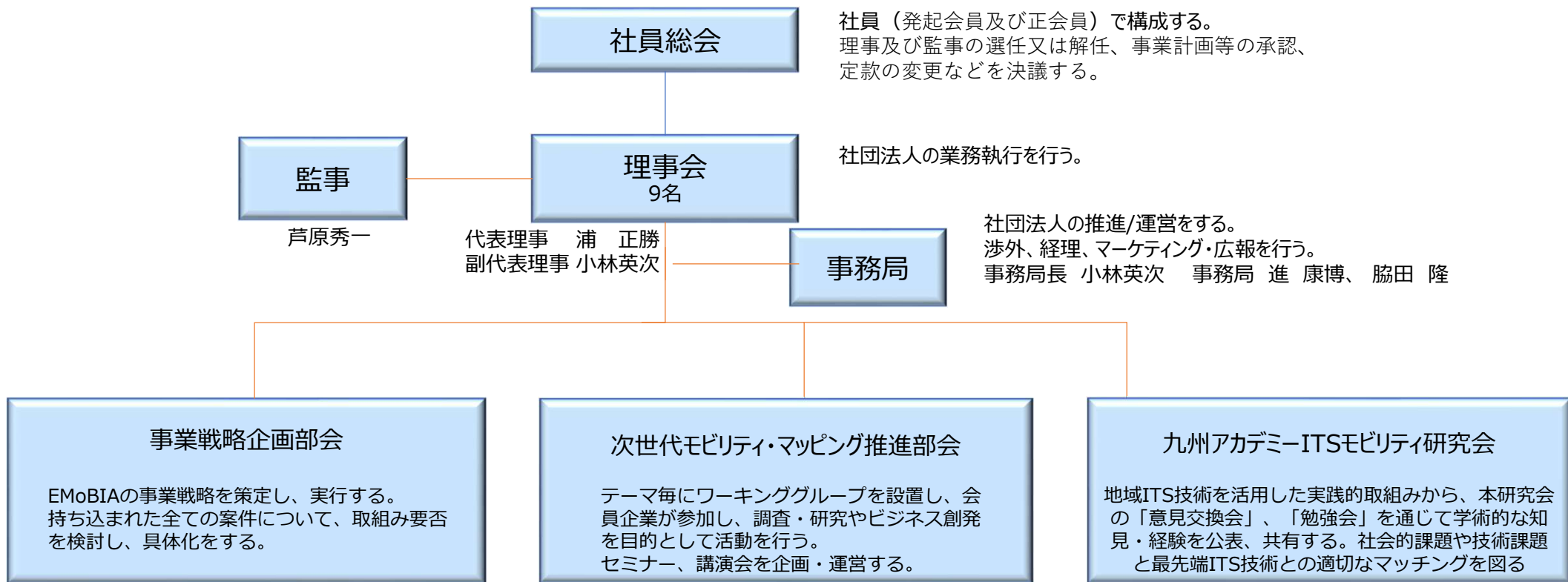
EMoBIA

一般社団法人EMoBIA

目次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
 - ① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2023年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2023年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 2023年度 取組み体制
7. 取組み計画表 2023年度事業活動計画マスタープラン

2023年度 EMoBIA 組織体制



部会メンバー

事業戦略企画部会

部会長：パナソニックコネク ト 山口和洋（今岡宏一）
：NTTデータ 平尾浩一、椎葉大地
：東京コンピュータサービス 長井孝行
：インテ ループ 木下泰孝

次世代モビリティ・マッピング推進部会

部会長：PTVグループジャパン 端野良彦
：インテ ループ 木下泰孝
：RYODEN 松村保明
：ゼンリン 古野豊起

：（募集中）

順不同敬称略

理事・顧問について

代表理事

浦 正勝

副代表理事 兼 事務局長

小林 英次

理事

木下 泰孝

古賀 紹公

福田 晃

片桐 勇一郎

山口 和洋

和田 宏

端野 良彦

監事

芦原 秀一

顧問税理士

井村 幸男(税理士法人井村&パートナーズ)

特別顧問

天野 肇 (ITS-Japan元理事)

増田 博行(一般社団法人日本道路建設業協会 副会長
兼専務理事 九州大学 客員教授)

名誉顧問

二橋 岩雄(元トヨタ自動車九州会長)

安浦 寛人(元九州大学副学長)

技術顧問

石 太郎(早稲田大学環境総合研究センター
参事・招聘研究員)

時津 直樹(インターネットITS推進協議会事務局長)

野辺 継男(名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授)

森山 誠治(一般財団法人日本みち研究所(RIAS)専務理事)

牧野 浩志(一般財団法人国土技術研究センター(JICE)
道路政策グループ総括
都市・住宅・地域政策グループ総括 博士(工学))

今田 一典(西日本高速道路株式会社 九州支社 調査役)

一般社団法人EMoBIA会員

《正会員》4社

パナソニック コネクト株式会社
沖電気工業株式会社
株式会社NTTデータ 製造ITイノベーション事業本部第一製造事業部
株式会社PTVグループジャパン

《スタートアップ会員》4社

BOLDLY株式会社
RYDE株式会社
株式会社HROTTI
株式会社eMoBi

《賛助会員》13社 1協会 1協議会

電気興業株式会社 九州支店
インターネットITS協議会
公益社団法人企業情報化協会 (IT協会)
株式会社RYODEN
みなと観光バス株式会社
株式会社オリコム 福岡支社
ジョルダン株式会社
東京コンピュータサービス株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社i7
株式会社ゼンリン
ワークスモバイルジャパン株式会社
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 九州支店
株式会社ディ・アイ・システム

《特別会員》20組織

九州大学 スマートモビリティ研究開発センター
熊本大学
北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議
一般社団法人 JCoMaaS
一般社団法人筑後川プロジェクト協会
学校法人 君が淵学園 崇城大学
久留米大学 経済社会研究所
公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団
国立大学法人 大分大学 経済学部門
九州産業大学 地域公共交通運行管理支援グループ
長崎県公立大学法人
東京大学 大学院情報理工学研究所
九州大学大学院システム情報科学研究院 荒川・峯研究室
熊本学園大学
公益財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所
福岡大学工学部小野研究室
一般財団法人 みち研究所
一般社団法人 日本道路建設業協会
ZETAアライアンス
一般財団法人国土技術研究センター

《EMoBIA会員入会先》

一般社団法人 九州経済連合会

公益財団法人 九州経済調査協会

インターネットITS協議会

公益社団法人 企業情報化協会(IT協会)

一般社団法人 JCoMaaS

一般社団法人 スマートシティ・インスティテュート(SCI-Japan)

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
 - ① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2023年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2023年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 2023年度 取組み体制
7. 取組み計画表 2023年度事業活動計画マスタープラン

2023年度 活動計画マスタープラン

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

7. 理事会 部会 12.. 理事会 部会 9. 理事会 部会 ▲ 23. 総会 7. 理事会 部会 4. 理事会 部会 8. 理事会 部会 6. 理事会 部会 10. 理事会 部会 8. 理事会 部会 12.. 理事会 部会 9. 理事会 部会 8. 理事会 部会

理事会(毎月)・事業戦略部会・次世代モビリティ・マッピング推進部会

九州アカデミーITS モビリティ研究会 九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲ 6/15キックオフモビリティ研究会 ▲ 九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲ 九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲ 九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲ 九州アカデミーITS モビリティ研究会

開催日程検討 会員企業セミナー勉強会(年2回実施,自治体含む)

立上検討 ▲ 月次 Report EV.自動運転技術勉強会 ▲ 月次 Report

▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会

モビリティショー 事前打ち合わせ ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会 ▲ 定例会

モビリティショー準備・取り組み体制
・参加企業 自治体 選定

先端モビリティワールドへ

EMOBIA市場の展開検討
参加企業(商品・サービス) 自治体(課題・ニーズ) 選定

第2回九州 MaaS マatching交流会

モビリティショー22~25日
EMOBIA市場の展開
参加企業(商品・サービス) 自治体(課題・ニーズ) 選定

報告まとめ

九州MaaSマatching交流会事業推進

- ・自治体が抱える課題に対して積極に取り組む
- ・MaaS関連企業、商品、サービス、ソリューション事例の検討
- ・交流会取り組みへの課題検討

2022年度

3月~大学連携AC部会準備



1月WS・FS
2月シンポジウム総括



MaaSマatching交流会

定例会議

勉強会

事業推進